

# 昭和25年度業務報告

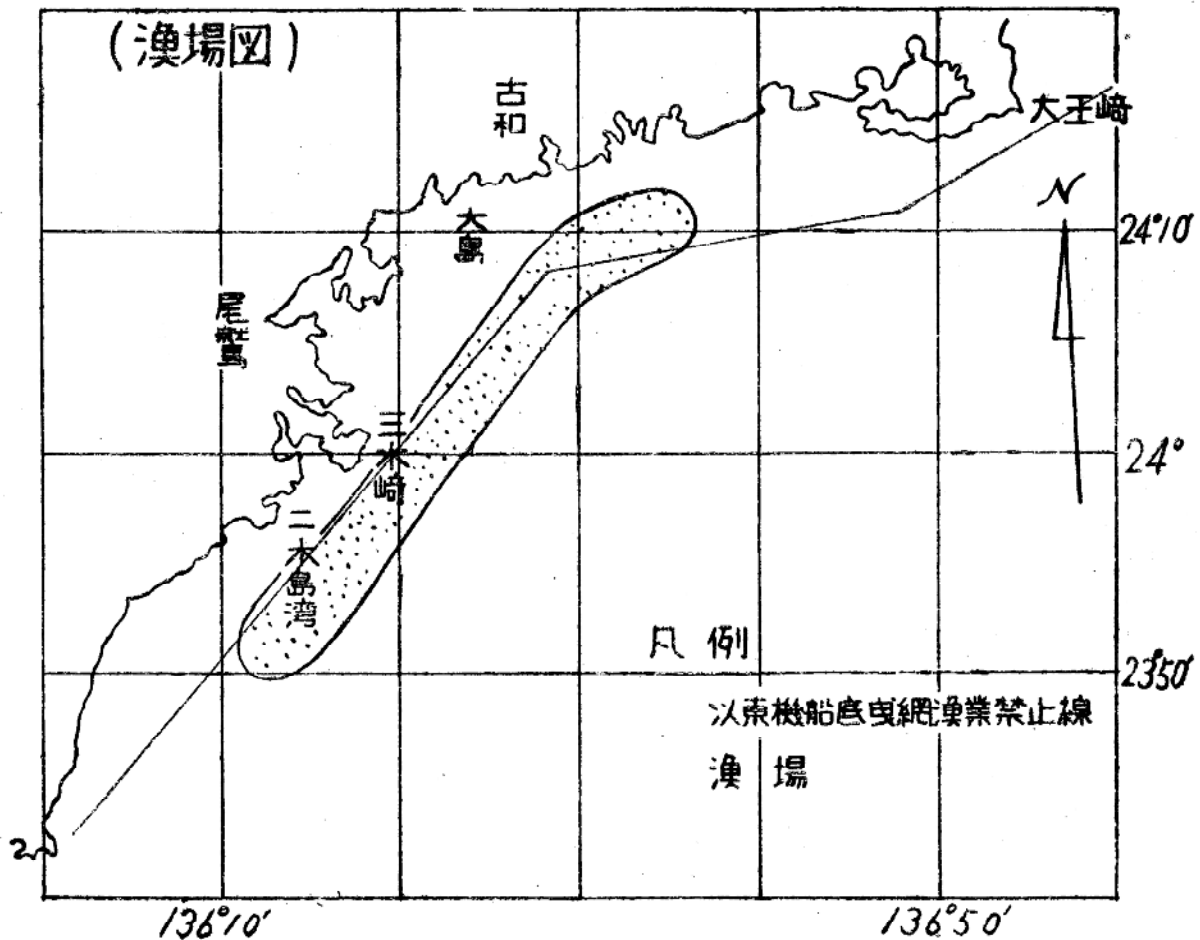
## 第一 漁 撈 部

本縣主要漁業たる底曳網漁業の當面せる行詰りを打開せんとし、同漁業の深海機船底曳網漁業の漁場擴張と資源量調査を主目的とせる機船底曳網漁業試験並に夏期太平洋岸に接岸の上灣内に來遊し、灣内漁業に被害を與へる鮫の被害防止を目的とし鮫延繩漁業試験を實施した。

### (1) 機船底曳網漁業試験

#### 概 要

調査期間 自昭和25年10月  
至昭和26年 6月  
調査漁業 三重縣大王崎より和歌山縣潮岬に至る間 (別圖)  
漁具漁法 調査船 海幸丸 (木27.16噸、ディーゼル90馬力)



業 具 (別圖)

漁 法 一艘曳

調 査 要 領 水深50米を基準として深度差50米の八深度帯に於ける漁獲物組成並に主要魚種年令調査・生態調査

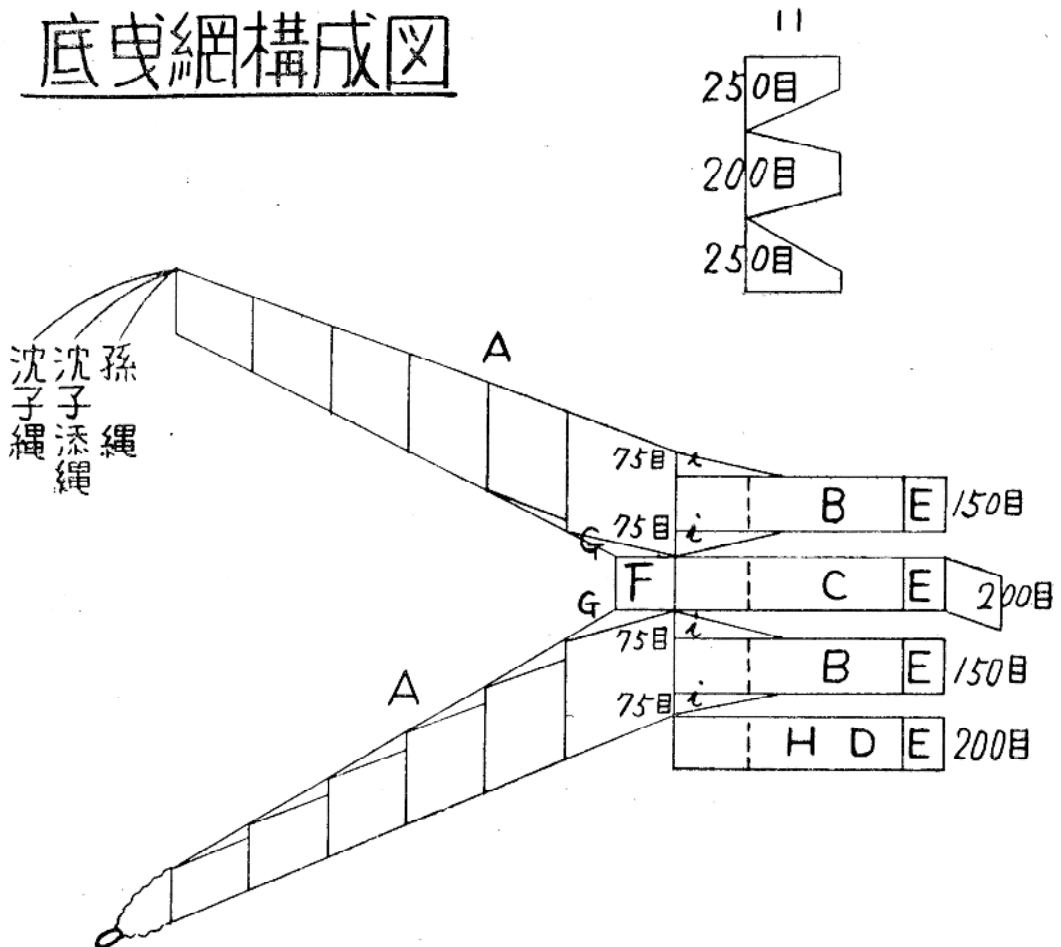
漁 具 材 料 表

1. 網 地

符号	名 称	区 分	材 料	太 サ	目 合	掛 目	長 サ	枚 数	備 考
A	袖	網	綿糸	20并3号	13節		74.0間		
B	側	網	"	"	"		19.5		
C	袋	上側網	"	"	"		7.5	2枚	
D	袋	下側網	"	4号	12節		7.6	2枚	
E	魚	捕網	"	5号	15節		11.6		
F	天	井網	"	3号	13節		2.5	2枚	
G	屋	根網	"	"	"		17.5	2枚	
H	戻	し網	"	"	"		4.0	4枚	
I	袋	側三角網	"	"	"		7.5		

漁具材料 第II図

底曳網構成図



## 2. 網 類

名 称	区 分	材 料	太 ざ	長 さ 及 数 量	計
浮 子 網		マニラロープ	4分	125尺 2本	50K
沈 子 網		〃 軟打	5分	26K 1本	26K
〃 添 網		〃	9分	28K 1本	28K
孫 力 網		マニラトワキン	2匁3分付	1丸	
曳 網		マニラロープ	4分	17.5K 4本	35K
		〃	7分	3丸	
		〃	8分	5丸半	
		ワイヤー	5分径	30K	

## 3. 其 の 他

名 称	区 分	材 料 及 太 ざ	数 量
浮 子		ガラス 4寸径	41ヶ
沈 子		陶器 35匁	240ヶ

### 主 要 漁 獲 物 に つ い て

本漁業に於て、重要なもの、又は資源的指標と考へられるもの等主要魚種14種の漁獲組成は別表の通りである。この表から判る事は12月を堺として獲れなくなつてゐる魚種のある事である。例へばカナガシラ・キタイ・アマダイ・マトウダイ・ニギス等がそれで、反対に漁期中その漁獲量の浮動の少ないものに、アラメエソ・カサゴ・タコ・ヒゲナガモドキ等がある。斯の様に大陸棚上に棲息する魚種は漁期半ばにして、その漁獲量が著減する事は留意されねばならない。

#### (1) ニギス

本漁業の最も主要な漁獲物であつて、組成比17%と雑魚に次ぐ比率を示す。然し乍ら、本魚は150米水深の大陸棚に主として棲息するため、漁期半ばにその漁獲が著しく減少する。即ち12月最大値を示して以後漸次減少し、3月の末頃からニギスは極めて少く、カゴシマギスの僅に漁獲されるに留り、ニギスは一尾もない事例すらある。

#### (2) アラメエソ

本魚種も亦主要漁獲物であるが、経済的價値がニギスに比し幾分低いため、開禁初期等閑視され勝ちの傾向が見られる。2月以降ニギスが減少し始めると、ヒゲナガモドキ・ミズタコ等と共に主漁獲物となる。本魚は150米線、250米線の二水深帯に亘り幅廣く棲息するため漁期中その漁獲量の浮動は少い。

#### (3) ヒゲナガモドキ

俗稱ガスエビと云ひ、その経済的價値は最も高く、且つ組成比3.4%を示し漁獲量も少くない。漁場は300米線である。

#### (4) カサゴ・ミズタコ

共に300米前後の水深帯で底質が砂混りの所に多い。漁獲量も亦多く、組成比夫々0.2%、4.8%を占

め、ガスエビと混獲される。

(5) カナガシラ

177.3貫 4.6%を占め、漁獲量が多いが、1月以後は殆ど漁獲を見ない。

(6) キタイ・アマタイ

80米水深帯に漁獲されるがその漁獲量は極めて少い。

(7) マトウダイ

古和、大島等大陸棚の発達した平坦部の100米前後の漁場で漁獲される。12月までは漁獲も多いが、1月以降はクロマトウダイは殆ど見られず僅にギンマトウダイが散見されるに過ぎない。

ニギスと共に浅い漁場での主要漁獲物である。

漁獲物組成表

月別 漁獲量	魚種	ニギス	アラメ ニソ	カサゴ	カナガ シラ	アラ	キタイ	アマダ イ	マトウ ダイ	ミズタ ユ	アナゴ	ヒゲナ ガモド キ	ハモ	キンメ ダイ	雑魚
		漁獲量	332.3	7.0	2.0	55.0	50.9	10.9	5.0	147.0	8.0	0.4	2.8	0.5	5.9
百分比	21.1	0.5	0.1	4.2	4.0	0.7	0.3	11.6	0.6	0.1	0.1	—	0.4	24.5	
漁獲量	31.6	—	—	19.3	0.8	—	5.4	210.0	4.1	10.5	0.2	—	—	69.2	
百分比	7.8	—	—	4.7	0.1	—	1.0	52.1	1.0	2.5	—	—	—	17.1	
漁獲量	40.9	—	2.4	70.8	3.6	11.0	—	32.1	14.6	3.7	10.1	2.6	—	159.9	
百分比	24.3	—	0.4	12.2	0.5	1.9	—	5.5	2.5	0.5	1.8	0.4	—	27.6	
漁獲量	96.8	14.7	—	17.8	—	3.5	—	—	43.8	0.7	67.0	—	—	117.4	
百分比	12.2	1.8	—	2.2	—	0.4	—	—	5.5	—	8.4	—	—	14.7	
漁獲量	38.7	21.0	—	8.1	—	—	—	—	24.5	0.4	7.6	—	—	64.3	
百分比	22.9	12.4	—	4.8	—	—	—	—	14.4	0.2	4.4	—	—	38.0	
漁獲量	10.0	106.0	7.0	6.3	7.0	—	—	7.0	88.0	—	42.0	—	—	281.0	
百分比	1.5	17.4	1.1	1.0	1.1	—	—	1.1	12.8	—	6.9	—	—	46.2	
漁獲量	650.3	148.7	11.4	177.3	62.3	25.4	10.4	396.1	183.0	15.7	129.7	3.1	5.9	1000.6	
百分比	17.0	3.9	0.2	4.6	1.6	0.6	0.2	10.4	4.8	0.4	3.4	—	0.1	26.3	

月別水深別漁獲量表

10月分

水深(米)	魚種	ニギス	ワキヤハタ	スミクヒ	アラメ	アンコ	ニメカサゴ	カナガシラ	アラ	キタイ	アマダイ	ギンメ	マトウダイ	カミミイ	ミズイ	イカ	ギンアゴ	ナガモド	雑魚	ウチエビ	ハモ	ノコギリサメ	キンメダイ	イボイタ	雑魚	計
50~100		-	-	49.0		7.0		19.3	10.6	5.9	5.0		35.0							1.4					26.3	159.5
100~150		114.1	18.2	113.8		26.7	2.0	30.8	35.0	5.0		3.2	90.0	2.4	0.5		0.4			6.3	0.5	1.4	3.5		158.2	612.0
150~200		24.5	3.5	11.4		5.0		1.4	1.8			7.0	8.0	2.4		24.3						0.8			31.5	121.6
200~250		177.2		14.0				3.5	3.5			4.9	14.0		3.5	6.0							7.0		70.5	304.1
250~300		-																							3.5	3.5
300~350		12.3				16尾																			14.0	34.4
350~400		-																								
400~450		4.2			7.0																				4.8	22.3
計		332.3	21.7	188.2	7.0	38.7 16尾	2.0	55.0	50.9	10.9	5.0	15.1	147.0	5.0	8.0	30.3	0.4	2.8	5.0	7.7	0.5	2.2	5.9	7.0	308.8	1257.4

(概要)

本月中に三航海實施し、漁場は尾鷲沖合を中心とし、北は三重縣北牟婁郡大島、南は同郡三木崎沖であつた。尙漁場に於ける平均水温24℃、同氣温22℃である。

操業回数62回、漁獲量1257.4貫を得、主要漁獲物組成は次の通りである。

主要漁獲物

魚種名	漁獲量	百分比
ニギス	332.3貫	21.1%
スミクヒ	188.2	15.0
マトウダイ	147.0	11.6
カナガシラ	55.0	4.2
アラ	50.9	4.0
雑魚	308.8	24.5



1 2 月 分

水深別	魚種別	ニギス	スミク	エソ	アンコ	ユメカ	カナガ	ガンギ	アラ	マゴチ	キタイ	マトウ	ヒラ	雑カ	ミズ	ハリ	ギン	ヒガ	ウチ	アジ	イタ	キン	雑魚	計		
50~100							5.9					14.0		1.4		2.4	3.5			0.2	1.0	1.4		17.5	47.3	
100~150		112.2	38.9	3.5	3.8	2.4	60.1		1.2	2.8	11.0	18.1	1.8	4.8	0.2	3.6			7.0	6.0	3.5	5.9		119.0	408.2	
150~200		8.4	1.4		7.0		4.8	2.4	2.4						0.8	1.4	0.2							11.1	39.9	
200~250		12.9	0.2		6尾			0.8							1.0									3.5	18.4	
250~300		1.8													10.7			1.4	1.4					3.8	34.1	
300~350		3.8													1.4			4.5	8.8					0.7	19.2	
350~400		1.8													0.5			4.2	1.4					4.3	12.2	
計		140.9	40.5	3.5	10.8	2.4	70.8	3.2	3.6	2.8	11.0	32.1	1.8	6.2	14.6	7.4	3.7	10.1	33.6	6.0	2.6	1.0	4.9	5.9	159.9	579.3

(概要)

本月は二航海實施し、主な漁場は三重縣大島、古和沖である。尙漁場平均水温 18.5°C である。操業回数49回、漁獲量 579.4貫を得、主な漁獲物組成は次の通りである。

主要漁獲物

魚種名	漁獲量	百分比
ニギス	140.9貫	24.3%
カナガシラ	70.8	12.2
スミクヒ	40.5	7.0
マトウダイ	32.1	5.5
雑魚	159.9	27.6

1 月 分

魚種別 水深別	ニギス	アマメエソ	アンコー	カナガシラ	キタイ	ギンメ	雑カレイ	ミズダコ	スルメイカ	ギンアナゴ	ヒゲナガモ ドキ	雑魚	計
100~150	48.5	0.7		17.8	3.5		2.8		1.5	0.7		24.8	100.3
150~200	10.5					3.5						7.7	21.7
200~250	10.5	14.0						21.5	413.0		7.0	31.7	497.7
250~300	9.1		0.2					1.0	3.5		14.4	10.2	38.4
300~350	18.2		1.8					21.3	1.8		45.6	43.0	131.7
計	96.8	14.7	2.0	17.8	3.5	3.5	2.8	43.8	419.8	0.7	67.0	117.4	789.8

(概要)

本月は一航海實施したが、主な漁場は大王崎、古和、二木島各沖合であつた。尙漁場平均水温 16.3℃、同气温 12.0℃である。  
 操業回数44回、漁獲量789.8貫を得、主な漁獲物組成は次の通りである。

主要漁獲物

魚種名	漁獲量	百分比
スルメイカ	419.8貫	53.2%
ニギス	96.8	12.2
ヒゲナガモドキ	67.0	8.4
ミズダコ	43.8	5.5
カナガシラ	17.8	2.2
アマメエソ	14.7	1.8
雑魚	117.4	14.7

(註)

するめいかは毎年この候漁期になると豊  
 間200米前後の海底を密集移動する事が  
 考へられる。



2 月 分

水深別 魚種別	ニギス	アラメソ	カナガシラ	ヒラメ	ミズタコ	ハリイカ	ギンアナゴ	ヒゲナガモ ドキ	雑エビ	雑魚	計
100~150	31.5	14.0	8.1	3尾						28.0	81.6
150~200	0.2	3.5		2尾		1.8	0.4	0.1		12.9	18.9
300~350	7.0	3.5			24.5			7.5	3.5	23.4	69.4
計	38.7	21.0	8.1	5尾	24.5	1.8	0.4	7.6	3.5	64.3	169.9

(概要)

本月は一航海實施したが、主な漁場は古和、二本島沖であつた。尙漁場平均水温 12.2℃、同氣温 9.4℃である。  
操業回数21回漁獲量 169.9貫を得、主要漁獲物組成は次の通りである。

主要漁獲物

魚種名	漁獲量	百分比
ニギス	38.7貫	22.9%
ミズダコ	24.5	14.4
アラメソ	21.0	12.4
ヒゲナガモドキ	7.6	4.4
カナガシラ	8.1	4.8
雑魚	64.3	38.0

3 月 分

水深別 魚種別	ニギス	アヲメ エソ	ユメカ サゴ	アンコ	カナガ シラ	ア ラ	マ ト ウ ダ イ	ミ ズ タ コ	イ カ	ヒ ゲ ナ ガ モ ド キ	ボ タ ン エ ビ	雑 エ ビ	ハ ダ カ イ ワ シ	エ ヒ	雑 魚	計
50~100	3.0														7.0	10.0
100~150	3.0			1.0	4.8	7.0	7.0		1.5						30.0	54.3
150~200				0.5	1.5			2.5							11.0	15.5
200~250																
250~300	4.0	54.0	2.0	7.5				37.0		29.5		18.0		6.0	141.0	299.0
300~350		52.0		1.0				28.5		8.5	0.3	4.0	7.0		78.0	179.3
350~400			5.0	6.3				20.0		4.0	0.5				14.0	49.8
計	10.0	106.0	7.0	16.3	6.3	7.0	7.0	88.0	1.5	42.0	0.8	22.0	7.0	6.0	281.0	607.9

(概要)

本月は一航海實施した。主な漁場は尾鷲以南三木崎、新宮沖であった。尙漁場平均水温 17.4℃、同氣温 14.3℃である。操業回数46回、漁獲量 607.9貫を得、主な漁獲物組成は次の通りであった。

主要漁獲物

魚種名	漁獲量	百分比
アラメエソ	106.0貫	17.4%
ミズタコ	88.0	12.8
ヒゲナガモドキ	42.0	6.9
ニギス	10.0	1.5
雑魚	281.0	46.2

主要魚族棲息深度表

魚種別	月別	十月	十一月	十二月	一月	二月	生棲深度帯	最も漁獲の多かった深度
ニギス		100~450	100~400	100~400	100~350	100~350	100~450	100~200
アヲメエソ		400~450	—	—	100~250	100~350	100~450	150~250
ミズタコ		100~450	250~400	100~400	200~350	300~350	100~450	250~400
ヒゲナガモドキ		400~450	350~400	250~400	200~350	150~350	150~450	300~400
ボタンエビ		—	350~400	—	—	—	350~400	350~400
スミグヒ		50~250	100~250	100~250	—	—	50~250	50~150
ハシキンメ		50~250	50~150	50~200	100~150	100~150	50~250	50~150

底魚は季節的な又産卵その他の原因でその深淺移動が考へられたので、月別に集計したのであるが、期間の短いためか分明出来なかつた。

体長組成、年齢

ニギス

分布曲線には 6cm、11cm、16cm の3箇所に峰が出来て、而も右上りの傾向を示すから比較的大型魚が獲れている事が察知される。尙魚体調査の年齢と照合する時夫々の峰は0才、1才、2才各々年齢群を表なるものと考へられるから二才群が最も多く漁獲されている事が推測される。

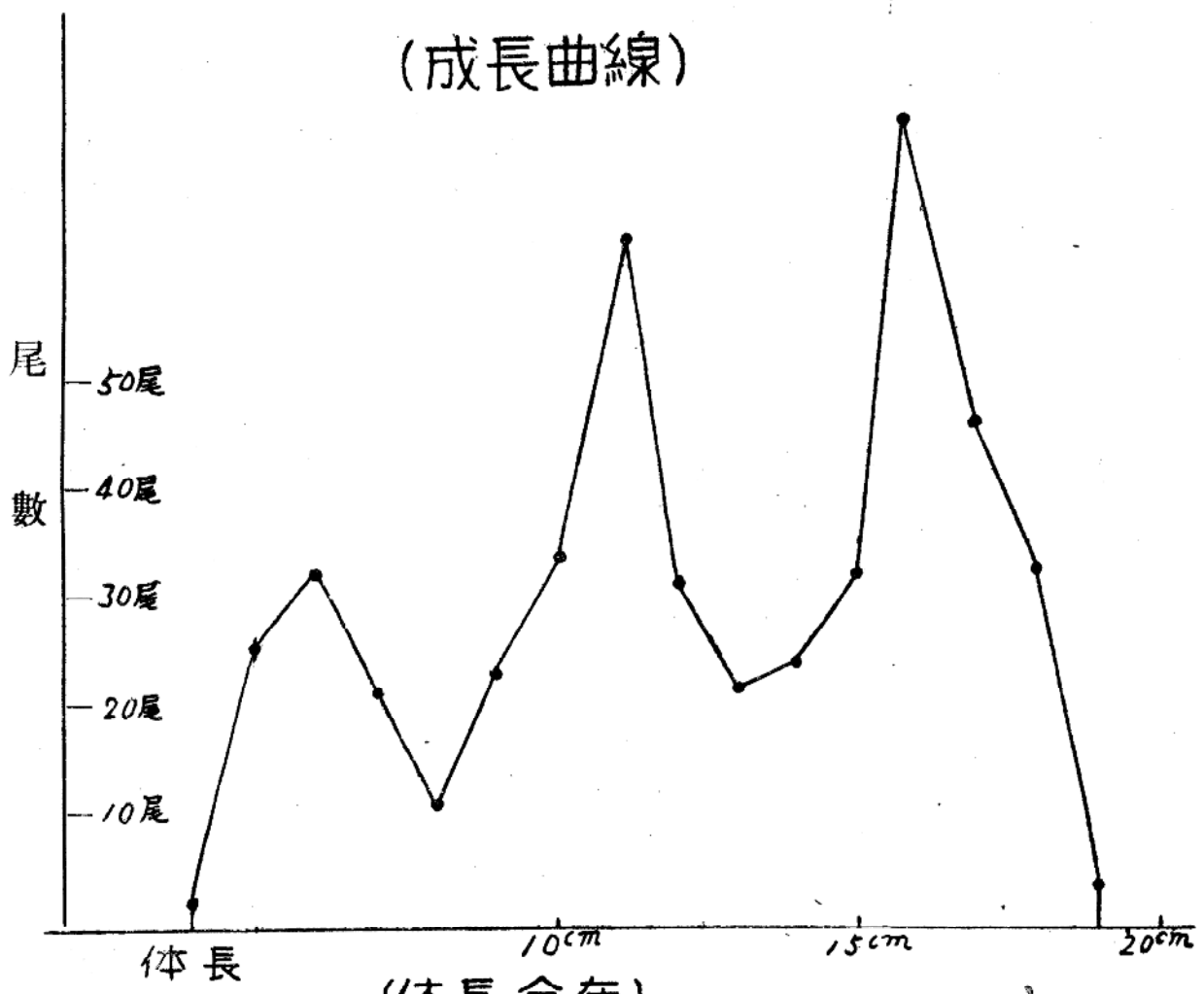
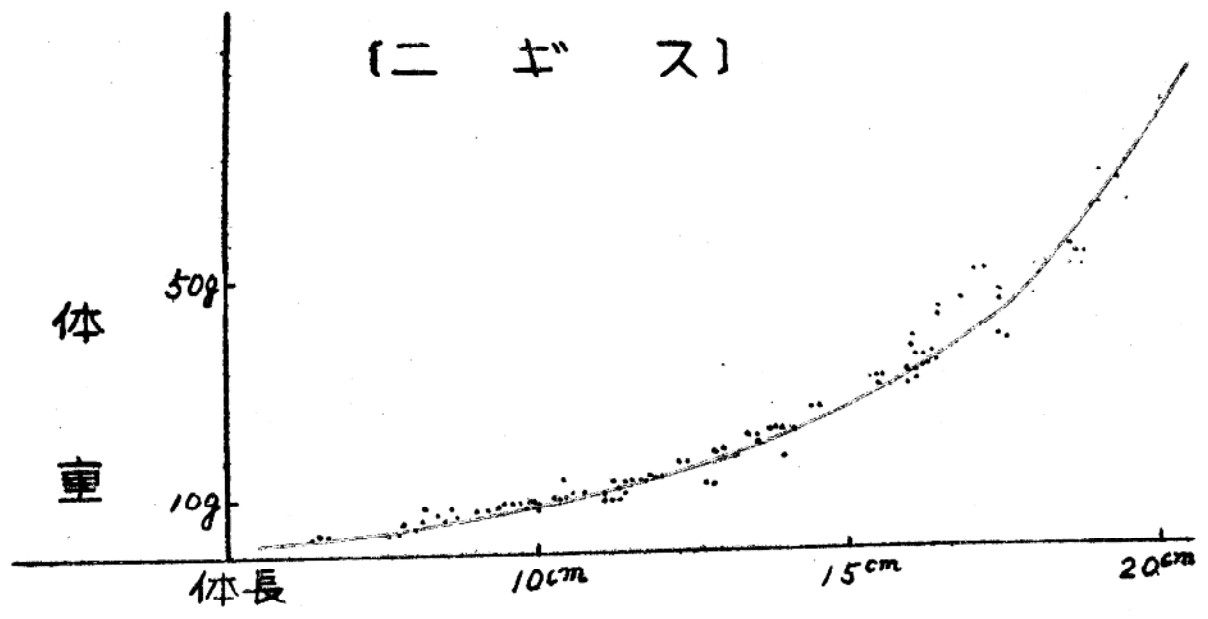
アヲメエソ

8cmの所に1箇丈の峰で、右下り傾向は、若年魚が多く漁獲されていると考へられる。

ヒゲナガエビ

胸甲長分布は峰は1箇で、右側カーブの傾斜は緩かな形状を示しているが、この曲線は胸甲長の分布範囲が小なるため、傾斜角度大で分布が不明瞭である。

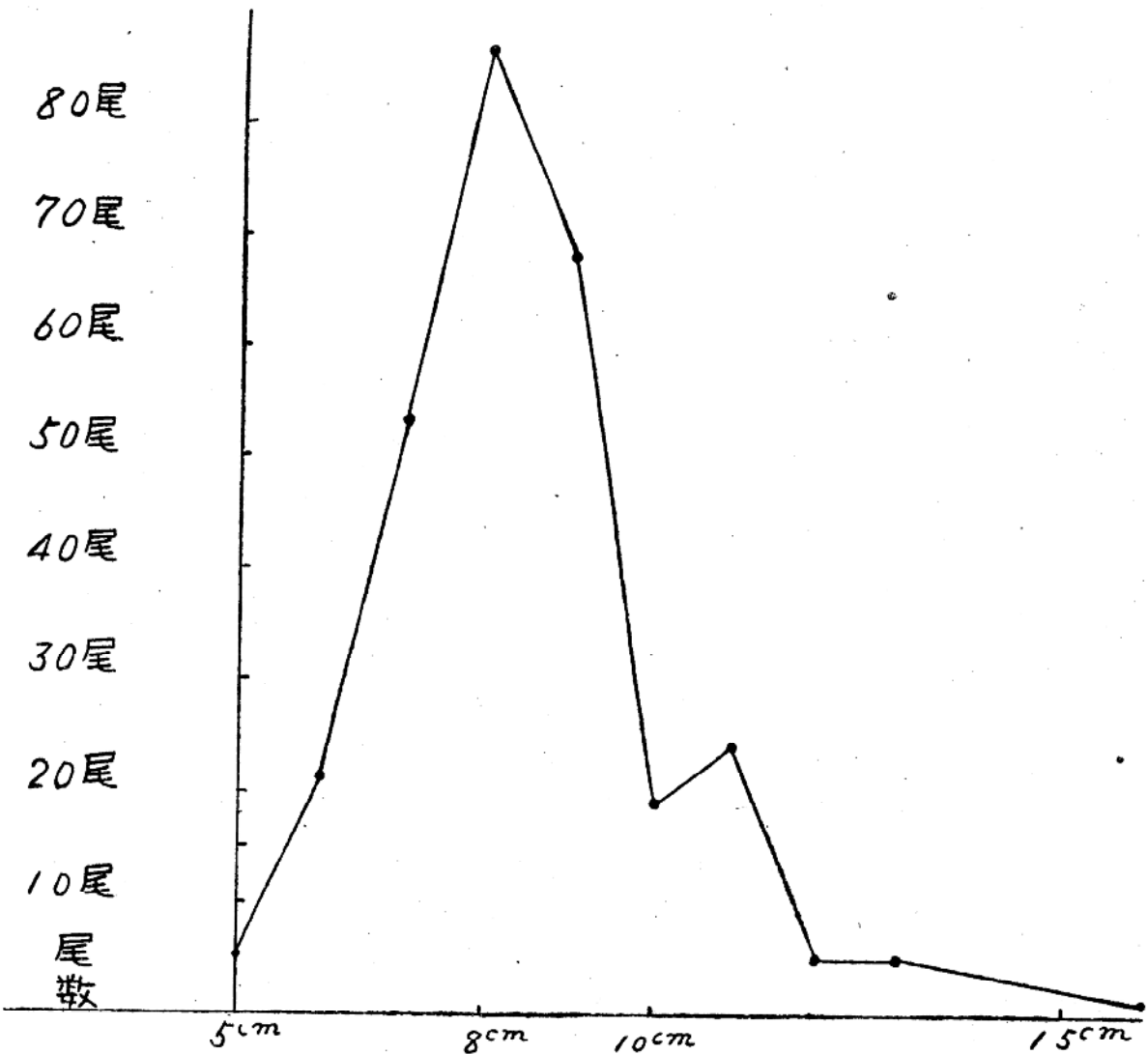
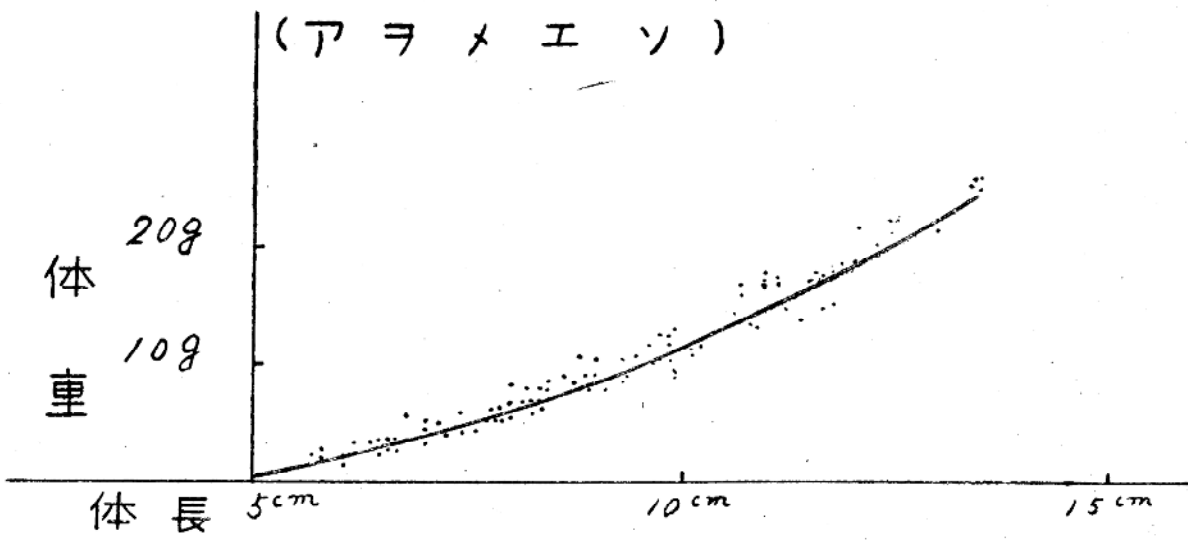
(註) 胸甲長分布より体量分布の方が明瞭と考へられる。



(体長分布)

總尾数 486尾

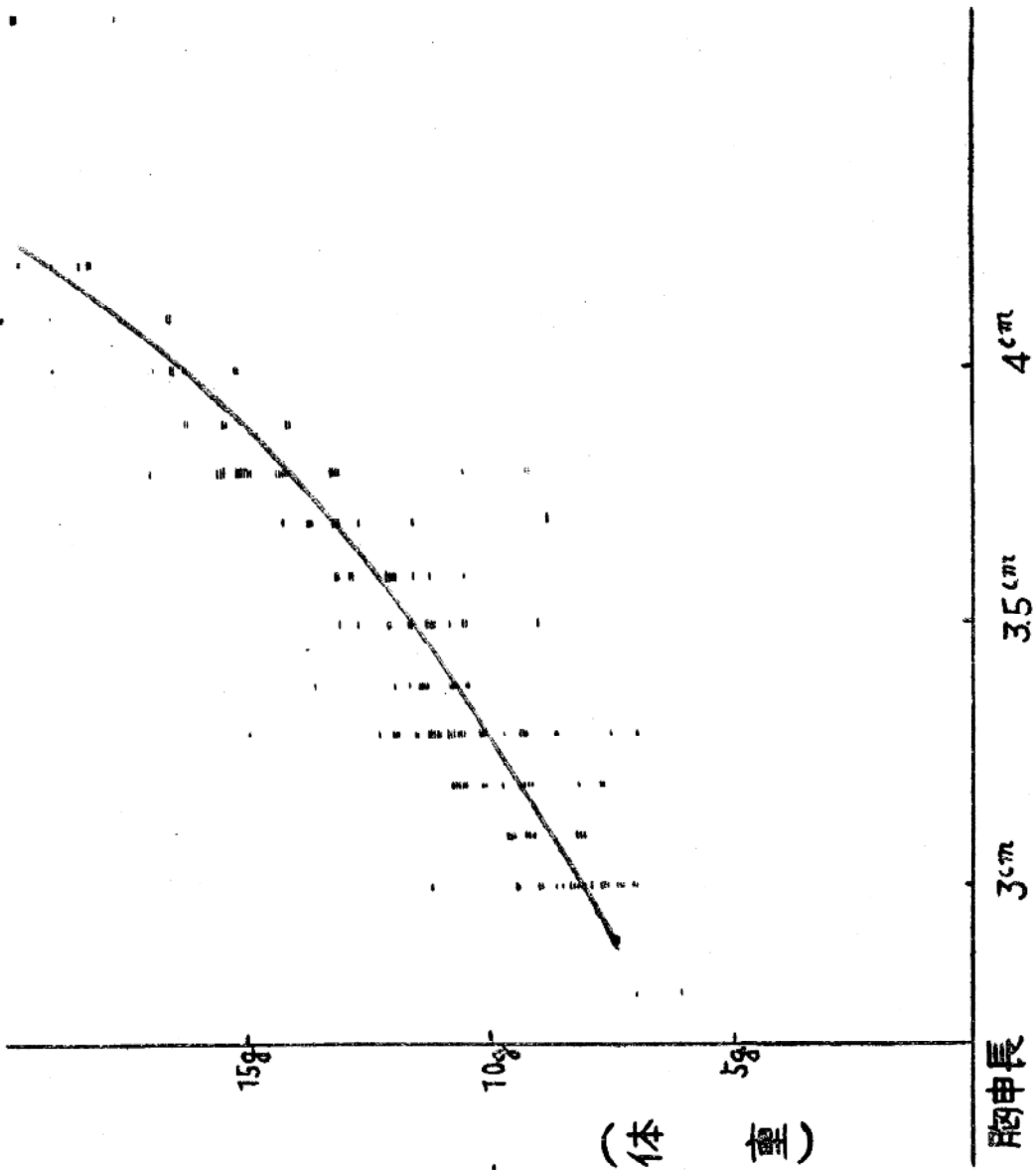
(アヲメエソ)



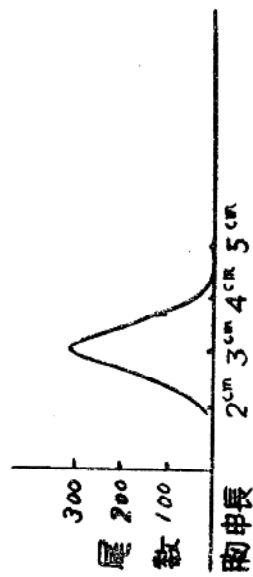
(体長分布)

總尾数 285尾

(ヒゲナガモドキ)



(成長曲線)



(胸申長分布)

(註)

胸申長分布

2 <sup>cm</sup>	7尾
3 <sup>cm</sup>	309尾
4 <sup>cm</sup>	28尾
5 <sup>cm</sup>	3尾
計	347尾

## 生態調査

(年令)

三漁種共2才魚が多く、アラメエソのみ不明となつている。ニギス以外は若年群が漁獲されていると云へる。

(餌料生物)

各魚種共殆どすべてエビであつて、偶に青泥様のものが採取される事がある。

(成熟度)

カナガシラでは5割以上が未熟であり、成熟魚は2尾に過ぎない。アマダイは全部未熟である。尚アラメエソ、ニギスは不明である。

魚種 カナガシラ      調査 昭和26年3月      漁場名 大島      水深 85米

区分 No.	年令	体長 cm	体重量 g	雌	雄	成熟度	餌料生物	摘 要
1	2	13.0	50.6	♂			エビ	<p>A. 成熟度について 雌総尾数20のうち</p> <p>成熟のもの 2尾 半熟のもの 7尾 未熟のもの 11尾 の組成となつている。</p> <p>B. 餌料生物について</p> <p>エビ 34尾 不明 7尾 無 8尾</p> <p>殆どのものがエビを食餌 としている。</p> <p>C. 年令組成について</p> <p>3才 1尾 2才 34尾 1才 13尾 不明 1尾</p> <p>2才魚が69%を占めて最 大で小型魚が多い。</p>
2	2	16.0	75.0	♂			無	
3	2	15.5	65.2	不明			不明	
4	2	15.5	65.6	♂			不明	
5	2	15.5	65.6	♂			エビ	
6	2	16.0	69.3	♂			エビ	
7	2	15.5	69.3	♂			エビ	
8	2	16.0	76.1		♀	半	エビ状のもの エビ	
9	2	13.5	54.7	♂			エビ	
10	2	14.5	60.0		♀	半	エビ	
11	2	14.5	63.7	♂			エビ	
12	2	14.5	58.1		♀	半	無	
13	不明	16.5	84.7	不明	不明		不明	
14	2	14.5	60.3		♀	半	エビ状のもの	
15	2	16.0	75.0		♀	半	無	
16	3	17.5	90.0		♀	成	エビ	
17	1	13.0	43.1		♀	未	エビ	
18	2	13.3	48.0	♂			エビ	
19	1	10.0	24.3		♀	未	エビ	
20	2	15.0	65.6	♂			エビ	
21	2	13.0	41.2	♂			エビ	
22	1	12.5	41.2		♀	未	エビ	
23	1	13.8	52.5	♂			エビ	
24	2	13.0	43.1	♂			エビ	
25	2	12.3	34.5	♂			エビ	
26	1	11.5	31.5	不明	不明		エビ	
27	2	9.5	21.0	♂			エビ	
28	1	10.5	26.2		♀	未	エビ状のもの	
29	2	10.5	25.8		♀	未	エビ	
30	1	11.0	28.5	不明	不明		エビ	

31	1	9.5	20.6		♀	未	エビ
32	1	9.5	20.6	♂			エビ
33	2	10.0	22.5	♂			エビ
34	2	10.3	26.2		♀	未	無
35	2	9.5	22.5		♀	未	エビ
36	1	9.5	20.2		♀	未	無
37	2	10.0	22.5		♀	未	エビ
38	1	6.0	4.5	不明	不明		
39	1	7.4	9.3	不明	不明		
40	1	9.0	18.7	不明	不明		
41	2	16.0	82.5	♂			エビ
42	2	14.5	76.8		♀	半	無
43	2	14.3	73.1	♂			エビ
44	2	14.0	69.3	♂			エビ
45	2	14.5	75.0	♂			無
46	2	12.8	56.2		♀	半	不明
47	2	12.8	45.0	♂			無
48	2	14.5	75.0		♀	成	エビ
49	2	12.5	42.5		♀	未	エビ
50	2						

魚種 アマダイ 調査 昭和26年3月 漁場名 大島 水深 90米

区分 No.	年令	体長 cm	体重 g	雌	雄	成熟度	餌料生物	摘要
1	2	20.0	150.0	♂			青泥	A. 成熟度について 雌尾数 5尾のうち全部が 未熟である。 B. 餌料について 不明 5 泥青 4 エビ 2 ヒトデ 1 無 1 組成を示す。 C. 年令組成について 調査尾数13のうち 2才 9尾 1才 4尾 となつている。
2	2	19.8	138.7	♂			不明	
3	2	20.0	150.0		♀	未	不明	
4	1	18.0	112.5	♂			青泥	
5	2	19.0	124.5	♂			無	
6	1	11.0	28.1		♀	未	不明	
7	2	22.5	217.5	♂			エビ	
8	2	20.0	162.5		♀	未	ヒトデ	
9	2	21.0	187.5	♂			エビ	
10	2	20.0	159.3		♀	未	青泥	
11	2	20.0	187.5	♂			青泥	
12	1	13.0	48.7	♂			不明	
13	1	12.0	43.1		♀	未	不明	



魚種 目光

調査 昭和26年3月21日

漁場名 新宮沖

水深 240米

区 No.	分 年令	体長 cm	体重 g	雌	雄	成熟度	餌料生物	摘 要
1		9.9	9.3				エビ	①雌雄別については魚体が未熟のため判別困難のため出来なかつた。 ②餌料生物はすべてエビであつた。 ③年令は耳石に依つて判別する予定であつたがフォルマリンに依り輪紋が浸され出来なかつた。
2		11.0	18.7				エビ	
3		9.2	6.7				ナシ	
4		7.8	3.7				エビ	
5		11.9	16.8				エビ	
6		11.7	15.0				ナシ	
7		8.9	5.6				ナシ	
8		11.5	13.1				エビ	
9		12.3	22.5				エビ	
10		11.7	16.8				ナシ	
11		9.8	9.3				ナシ	
12		8.5	4.5				ナシ	
13		6.7	1.8				ナシ	
14		8.6	5.6				ナシ	
15		8.6	4.5				ナシ	
16		9.0	5.6				ナシ	
17		9.2	6.0				ナシ	
18		11.0	16.8				エビ	
19		13.0	22.5				エビ	
20		5.9	6.3				ナシ	

魚種 ニギス

調査 昭和6年3月

漁場名 尾鷲沖

水深 260米

区 No.	分 年令	体長 cm	体重 g	雌	雄	成熟度	餌料生物	摘 要	
1	2	19.5	65.6	不明	♂		エビ	A. 成熟度……不明 B. 餌料生物 エビが多く, 2尾のみ不明 C. 年令 3才 1尾 2才 14尾 1才 2尾 不明 2尾	
2	2	17.5	48.7		♀				エビ
3	2	16.0	39.3						エビ
4	2	16.5	44.2						エビ
5	2	17.2	50.6						エビ
6	1	16.0	33.0						エビ
7	2	16.2	41.2						エビ
8	1	16.0	37.5						エビ
9	2	17.5	54.3						エビ
10	2	16.5	42.3						エビ

11	2	17.0	50.6	不明		エビ
12	2	18.2	50.6			エビ
13	2	18.0	52.5			エビ
14	不明	18.7	54.3			不明
15	不明	18.4	52.5			不明
16	2	17.5	45.0			無
17	2	18.0	48.7			無
18	2	19.3	58.1			無
19	3	20.0	70.0		♂	無

## (2) 内 灣 鮫 縄 試 験

### 試験の設備及び其の方法

1. 使用船 海幸丸 27.16吨 デーゼル 90HP  
白鷗丸 4.0吨 焼玉 8HP  
農林丸 1.82吨 電気着火 4HP
2. 試験期間 自昭和25年8月22日 至 同 8月25日
3. 従業員 船長以下 8名 實習生 2名
4. 根據地 篠島港
5. 漁 場 (別添)
6. 使用漁具 鮫用延縄 24鉢
7. 構 造
  - 乾縄綿糸 20番手9匁付 175尋
  - 枝 縄 同 5尋
  - せきやま ワイヤー28番線3.4子に5號線糸を横巻 2尋
  - かなやま ワイヤー27番線3.4子に綿糸を横巻 1尋
  - 釣 鉤 3.8寸 6個
  - 浮子縄 綿糸20番手9匁 1.5尋
  - ぼんでん 2間 6本
  - 浮 子 アルミ製径1尺
8. 餌 料 大メジ 鯖 生タコ

### 漁 況

漁場は内灣に於て最も水深の深い所で底質は岩であり、島と島との間故に潮流が早い。操業1~2回の時に底縄（浮縄を長くし乾縄の両端に錘を付ける）を行つたが、縄は移動しないが枝縄と鉤が底岩に引

掛つたり、繩掛り等を生じた餌がサバ、メジ故にサバは他魚又は虫に喰はれ頭と骨許りなのが多かつた。メジの方は變化なく残つて居たので三日目より餌を生タコにし浮繩を1.5尋にし繩の中央に中浮を付け流繩を行なつたが水深の深い所は繩が流れ、浅き所で枝繩が岩に引掛る状態で全く漁はなかつた。灣内のサメはタビ、ウズ等の生餌を好み（晝間の鯛釣漁業及潜水漁業者に驚怖を與へる）4日目に晝間鯖、メジ、タコの三種の餌で流繩を行つたが前記の如き状態に終つた。

結局漁場があまりにも浅く思ふ様に操業出来ず又内灣のサメが餌に對して非常に好みがあるものとしか思へない。

## 成 績

(白鷗丸)

月 日	操業回数	天候	風向	水 温	波浪	投繩時間	使用鉢	釣本数	釣本数	餌 料
8~22	1	B	E	28	1	18n50m 19n20m	14	84	84	鯖,メジ
~23	2	B	E	28	1	2~30 2~50	14	84	84	〃 〃
~24	3	B	E	28.5	2	4~10 4~30	14	84	84	タコ
〃	4	B	W	28	2	11~50 12~10	9	54	54	鯖,メジ,タコ
〃	5	B	W	27.5	2	18~30 19~00	14	84	84	タコ
~25	6	B	W	28	1	4~00 4~20	9	54	54	〃

(農林丸)

8~22 23	1	B	E	28	1	18~20 18~50	2~20 4~10	9	54	鯖,メジ
8~24	2	B	E	28.5	2	4~30 5~20	6~30 7~10	9	54	タコ